

## 平成 27 年度 環境教育研修 A1

平成 27 年 5 月 16 日 【場所】あさひこ幼稚園（村積山フィールドワーク）

9:30	開始
10:00	フィールドワーク
11:15	研修感想、質疑応答

### 【フィールドワーク】

雨（傘がいらぬ程度の小雨）ならではのフィールドワークを楽しむ。雨によって泥や汚れが取られた大葉や蕨を食べたり、竹を蹴って雨露を落として参加者にかけてたりした。また、鳥が飛んでいることに気づき雨が上がりそうだと分かるといった自然の中ならではの知恵も発見できた。どんなところにも自生している雑草（セイタカアワダチソウを使ってチャンバラごっこ、様々な草笛など）で楽しんだ。



### 【研修感想】

- ・的確な知識が大切だと感じた。食べられる草、触ってはいけない虫、それらを保育者がよく知った上で活動を行えばとても素敵なことだと思う（洞井）。
- ・自園に反映できない自然環境だったり活動内容だったりするかもしれない。だが諦めてしまうのではなく、小さな自然や季節の移り変わりといった環境教育を探したりしてほしい。また植物の名前や昆虫の分類などといった知識よりも子どもと発見したり驚いたり共感することのほうが大事だ。（竹田）

### 【質疑応答】

- Q 園児全員分の虫かごが用意できない。
- A 井上幼稚園の宝物箱（牛乳パックやペットボトルを切った物にみかんネットをつけた物）の紹介。園児一人一人が持っているが作るのはそれなりの時間が必要。
- Q 毛虫が大量発生した。触ってもいい虫といけない虫の見分け方が知りたい。
- A 基本的には見た目が派手な色やデザインの虫だと思うが一概には言えない。毛虫の5%程しか毒をもった毛虫はいないが、一つずつ覚えていくべきだ。幼虫図鑑というサイトがお勧め。過去に園児が毛虫に砂山を上らせて競争させていた。大人からすると害虫だが子どもには興味を惹く物なのかもしれない。
- Q 飼育しているカメやザリガニを棒でいじる園児がいる。
- A 好奇心とルール、どちらを大事にするべきか悩む質問だ。子どもの触りたい欲求は仕方が無いが、どうせ触るのであれば手で持てるようになればいいと思う。保育者の見ている間、殺さないというルールを作っ

たうえで触らせてみたらどうか？ ただ生き物を殺してしまった体験の中で、命の大事さを知っていくということも大事な側面だと思う。

#### 【まとめ】

保育者が園児と自然の関わりへのスタンスをしっかりと持つことが大事だ。育てること、殺してしまったこと、どちらも大事な経験だ。理屈だけで自然は守れないからこそ自然との関わりを大事にするべき。子どもが生き物と関わる中で保育者が慈しみを持って生き物に接し、それを子どもに伝えていくことが何よりも大事なのである。